

西新エルモールの今昔



再開発予定街区★ 昭和50年



西新再開発整地工事★ 昭和52年

西新にあったちん竹べい



ちん竹べい★

昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長によって、モータリゼーションが進展した結果、都心部及びその周辺部での交通渋滞が深刻な問題となっていました。

一方、西新は早良区の商業中心として発展してきましたが、木造住宅と商店の混在や道路等の交通インフラが脆弱な状態にありました。これらの諸問題を総合的に解決するため、姪浜と博多駅を結ぶ市営地下鉄1号線の駅舎整備や幹線道路の拡幅整備と一体となった、西新地区の約1.1ヘクタールのエリアで再開発が行われ、昭和56年に西新岩田屋（現エルモールプラリバ）をキーテナントとする再開発ビルが完成しました。



左奥に見える大木は、政治結社玄洋社を率いた頭山満翁が11歳（1865年）の時に「楠木正成のような人物になりたい」という思いから生家の庭に植えた楠木です。

当該地区の再開発にともない、本楠木は、西新公民館の前面にある西新緑地に移植されました。



西新再開発建設工事着手★ 昭和54年

黒田藩の支藩の直方藩は、享保5（1720）年に藩主の黒田長清の逝去により本藩に併合され、藩の下級武士たちは、現在の修猷館高校あたりの松原を切り開き「新屋敷」としました。

武士たちは「ちん竹」を生垣として住んだので、「ちんちく殿」と呼ばれていました。

ちん竹とは中国南部地方原産の「蓬萊竹」のことで、鉄砲の火縄の材料となることから、この竹を植えることが奨励されていたということです。

この写真は、西新7丁目のお宅にしつらえてある希少なちん竹塀を撮影（昭和41年）されたものです。